

令和7年度 宮城県立山元支援学校の研究概要 ～令和8年1月末現在～

運営委員氏名（ 及川奈美江 ）

研究テーマ	「個別最適な学び」を深め「協働的な学び」をひろげる授業づくり ーアセスメントと教材・教具の活用を通してー
研究目標	的確な実態把握（アセスメント）と児童生徒の障害や特性に応じた教材・教具の開発や工夫に取り組みながら授業研究を行い、学部・教育部門ごとの研究グループで振り返り・検討して改善することにより、児童生徒の「個別最適な学び」を深め「協働的な学び」をひろげることを目指す。
研究内容・方法 研究計画等	<p><研究内容・方法></p> <p>1 授業研究</p> <p>指導主事訪問での提供授業、指定研修（1、2年目、中堅研修）等の授業研究に取り組む。</p> <p>2 的確な実態把握（アセスメント）に基づいて、指導・支援を工夫する。</p> <p>従来から活用している諸検査に関する学び合いや、「自立活動実態シート」等を活用する。</p> <p>3 教材・教具の活用について、情報共有を図る。</p> <p>4 先行事例、文献等から学ぶ。</p> <p>5 研究グループごとに学び合う。</p> <p>児童生徒理解を深めるためのケース会開催など、各学部・教育部門のニーズに応じて計画、実施する。</p> <p>6 教員間で情報を交換し合う。</p> <p><研究計画></p> <p>4月 研究全体会</p> <p>5月 諸検査法講習会</p> <p>7月 研究授業 事後検討会（指導主事訪問）</p> <p>10～12月 各学部・教育部門でケース会等を実施</p> <p>3月 研究全体会</p>
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<p>①研究グループの構成：昨年度の反省を受け、小学部・中学部・高等部・病弱部門（小～高）の4グループとした。研究日で各学部・教育部門の抱える課題やニーズに応じた内容を扱うことができた。</p> <p>②諸検査法講習会では「S-M社会生活能力検査第3版」「遠城寺式乳幼児発達検査」の手順を伝達するのみならず、活用の具体例を共有した。</p> <p>③研究部だよりや掲示板（校務支援システム）を通して、教材・教具や特別支援教育に関する基礎知識や研修会等に関する情報を発信した。</p> <p>④研究授業の事後検討会、研究日において、各教員が普段使用している教材・教具や、検討の対象となった児童生徒に今後使用できそうな教材・教具について情報共有した。</p>